

# 語り部だより

## 授業風景

### 九州共立大学生をガイド

3月14日に、九州共立大学の学生さんたちを案内しました。



壁画前でガイドするジュニア

カナダミュージアムや龍王神社、アメリカ村バス停など、小三尾の中を巡りました。勿論密を避けるために1グループ3人まで、話すときは対面にならない、1メートル以上距離をあけるなど、感染対策も徹底しました。



共立大学生5名と記念撮影

二期生はコロナの影響で交流といえばオンラインばかりで、直接話すのは初めてです。最初はちょっと緊張気味でした。でも歩いていくうちにだんだんと会話も弾みだし、終わる頃にはすっかり打ち解けていました。自分たちの町や地域を遠くから来た人に紹介する、それは簡単なことではないけれど、だからこそこの経験がジュニアたちを一回り成長させてくれたようです。

報告 出石

### 京大外大生と交流

3月21日は、地域体験活動で三尾に2週間滞在していた京都外国語大学グローバル観光学科の大学生10名が授業に来られ、交流しました。

前半は、それぞれが自己紹介をした後に、ジュニアたちが、スクリーンに映しだされた三尾の名所を紹介しました。

後半は、4班に分かれ、大学生と直接、話をする時間を持ちました。ジュニアからは、「観光学科に対して「なぜ観光学科を選んだのか?」「何が学べ、



趣味の話で盛り上がってます

発行  
NPO法人  
日ノ岬・アメリカ村  
語り部部会  
Let's KATARIBE  
〒644-0045  
美浜町三尾778  
旧三尾小学校内  
TEL: 0738-20-9015  
URL: americamura.wakayama.jp

## ケリー、ありがとう!

4月2日、ケリーは故郷のカナダへ帰国しました。3月28日には、ケリーの最後の授業で送別会を行いました。



私達にとって、三尾にルーツ プレゼントに感激! を持つケリーが、美浜町で語り部ジュニアの活動に関わってくれたことは、運命のようでした。ジュニア達もケリーからたくさんを学びました。

日系家庭で育った彼女の話は、カナダ移民の歴史について学ぶ私達にとって、どれも貴重でした。三尾とカナダをつなぐケリーとの友情を、これからも大切にしていきたいです。

ケリーとの出会い、そしてケリーの活躍に感謝しています。

語り部ジュニア  
講師一同



送別会にて

将来どのような仕事に就きたいのか」などの質問が。交流を終え、ジュニアからは「観光学科に通っている方の夢を聞いたりして、夢があるってめっちゃいいな。私も夢があるので、そこに向かって頑張ろうと思いました。」と感想発表がありました。経験を重ねることに力が身に付いているのを見ていて感じました。また、普段交流しえない地域や

報告 三尾



とても楽しい時間を過ごしました

### 後磯へのフィールドワーク

4月11日は、万葉集にも出てくる「久米の岩屋」を観に、後磯(うしろそ)に出掛けました。

この日は、天気も良く大潮で景色も最高でした。昨年9月は、松永渡船さんに船を出していただき、海上から「久米の岩屋」(第2号参照)を観ました。しかし、目の前で観るとさらに雄大で、

# 講師自己紹介

授業では、歴史を担当している三尾雅信と申します。

僕は、高校を卒業するまでは三尾で育ち、県外に就職後、28年を経て4年前に和歌山へ帰ってきました。

しかし、三尾に家はなく、現在は和田で住んでいます。

帰ってきて間もないとき、懐かしみながら三尾の集落を歩いていました。人を見かけることが少なく、草が背丈ほどに生い茂り、今にも崩れそ



うな空き家を眺めていると、胸が締め付けられるような寂しさを感じました。僕が子どもの頃に育った当時と違い、三尾地区自身に活気がなくなっているように感じました。

何とかしたいと思いつつも、一人では大したこともできないと思い悩んでいたところ、語り部講師の吉川先生から誘いを受けました。まず、自分自身ができることから始めようと思いました。これからも、宜しくお願いします。

日ノ岬から三尾を望む  
3月31日撮影



迫力は違います。また、さらに東側にある「くぐり穴」の中にも入りました。そこから見える外の景色は美しく、波の音だけが聞こえる神秘的なところでした。ジュニアからは、「しんどかったけど、普段行くことがないところで、めっちゃ楽しかった」など感想がでていました。

この日は、和歌山市ALITのラリーさんも授業の見学に来られ、一緒に参加。「今日の遠足は予想していなかった。着いたらスツキリ。I enjoyed (楽しかった)」と一緒に楽しんでくれた様子でした。

報告 三尾



「久米の岩屋」前で記念撮影

# NEWS

公開オンライン講座「移民でつながる VOL.3」

3月27日(土)に、第三回目の講座が行われました。

1部目は、京都外国語大学外国語学部4年生の松浦千夏さんと長谷川晴子さんによる「水田治司氏の生涯」をテーマにしたお話でした。カナダで生まれ、幼少期から高校卒業までを三尾で過ごし、22歳の時にカナダへ戻った帰加二世である水田氏へのオンラインイ

ンタビューに基づく卒業研究の成果発表でした。

2部目は、河原典史先生(立命館大学教授)による「カナダ日本人移民史における三尾出身者の再発見 - 『カナダにおける日本人水産移民の歴史地理学研究』の執筆にあたって -」をテーマに、お話がありました。お話からは、ストーリーが充実して、バンクーバー島などでの日系漁師の活躍と苦難の歴史が、手に取るようにわかることができました。

# 三尾の自慢・見どころ紹介 大賀蓮

6月15日前後になると、大賀池に見事な蓮が咲き始めます。この蓮は「大賀蓮」と言って、「二千年ハス」ともいわれる古代ハスです。



美しいピンク色の花を咲かせます

大賀蓮の実は、大賀一郎博士によって、1956年(昭和26)に、千葉市検見川の東京大学厚生農場にある遺跡から、苦心の末に発掘されました。その発掘には、たくさんの方の協力者と約一か月を

要し、見つかった3粒のハスの実のうち、順調に育ったのは1粒のみでした。

なぜ、そのような蓮が日ノ岬の麓にあるのか不思議ですよね？それは、美浜町が、大賀博士の弟子であった阪本祐二氏(御坊市)の斡旋により分根を受け、日ノ岬パークの観光の目玉の一つとしたからです。

二千年前の人達も、この蓮を眺めていたことでしょう。



大賀蓮記念碑

# 編集後記

一昨年、西山登山口近くにある「忠魂碑」を探しに行つたとき、笹などに覆われ荒れていたのに驚きました。しかし、今年行くと、有志の方が伐採してくれていました。今は、「防犯監視所跡」も展望を良くするために伐採を始めてくれてます。色んな方のお力に、感謝するばかりです。